

Japanese Literature — 47



安部公房集
大江健三郎



現代日本の文学

47

現代日本の文学

安部公房 集
大江健三郎

〈監修委員〉

伊藤 整

井上 靖

川端康成

三島由紀夫

〈編集委員〉

足立 卷一

奥野 健男

尾崎 秀樹

北 杜 夫

(五十音順)

学習研究社

現代日本の文学

47

全50巻

分割払価格 39,000円

現金価格 35,500円

安部公房 集
大江健三郎

昭和45年4月1日 初版発行

昭和48年2月1日 九版発行

著者 安部公房
大江健三郎

発行者 古岡

発行所 株式会社学習

東京都大田区上池台4丁目40番5号

郵便番号 145 振替東京145930

電話 東京(720)1111 (大田区)

印刷 大日本印刷株式会社

暁印刷株式会社

製本 株式会社三友

本文用紙 三菱製紙株式会社

表紙クロス 東洋クロス株式会社

製函 日本紙パルプ商事株式会社

*この本に関するお問合せやミスなどがありましたら、
文書は東京都大田区上池台4丁目40番5号(〒145)学習
「ユーザー・サービス本部事務局」現代日本の文学
電話は、東京(03) 720-1111 内線352, 353か、東京(03)
727-1600へお願いします。

© 1970 Printed in Japan

0393-164 64



作者の原籍地であり、少年期に住んだことのある北海道旭川市郊外(上)と鷹栖付近の農家(左)



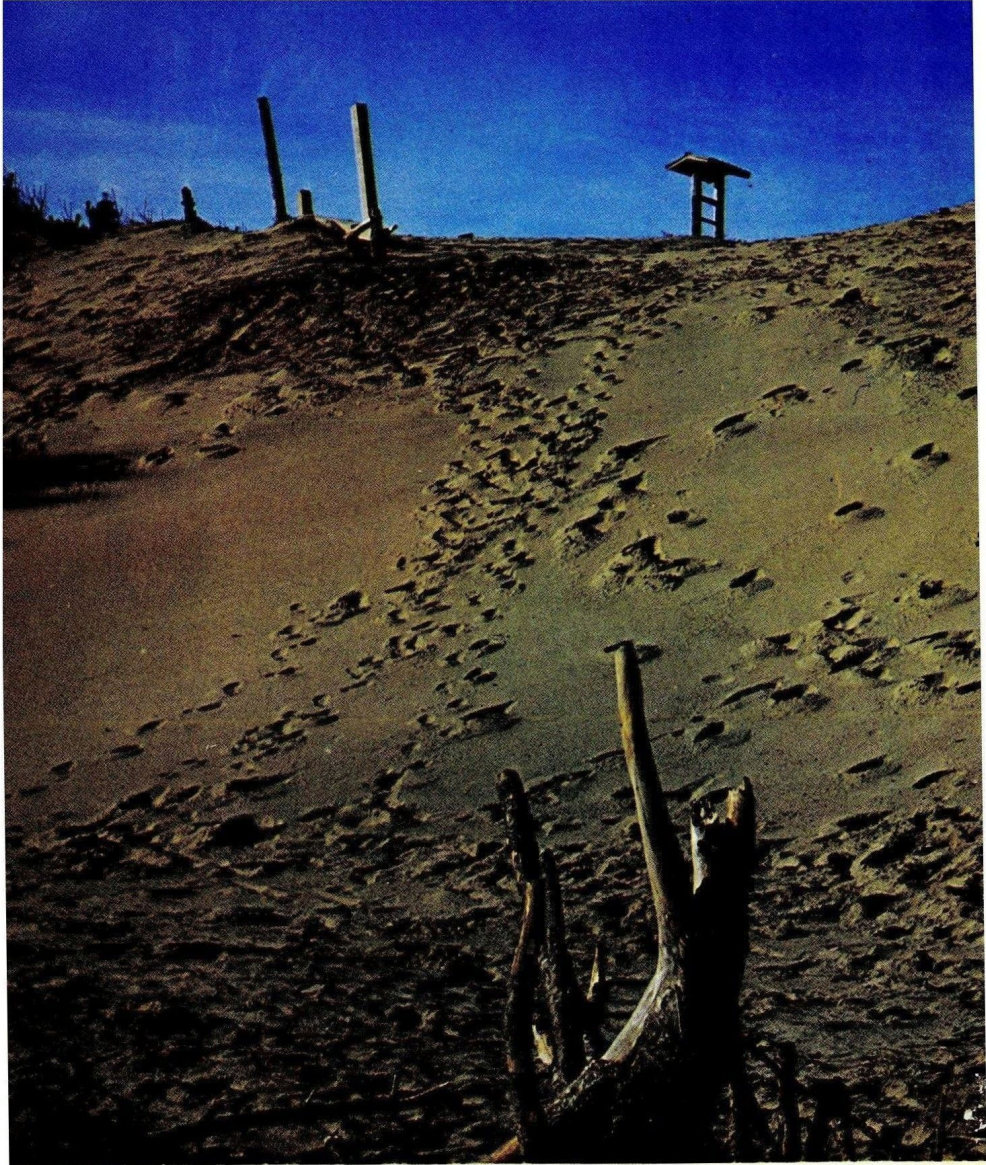


一面の氷雪におお
われた冬の石狩川

秋頃の北海道・鷹栖付近







柄の先で、草むらを叩いたりしながら、また歩きだした。砂の上には、潮のかおりがたちこめていた。

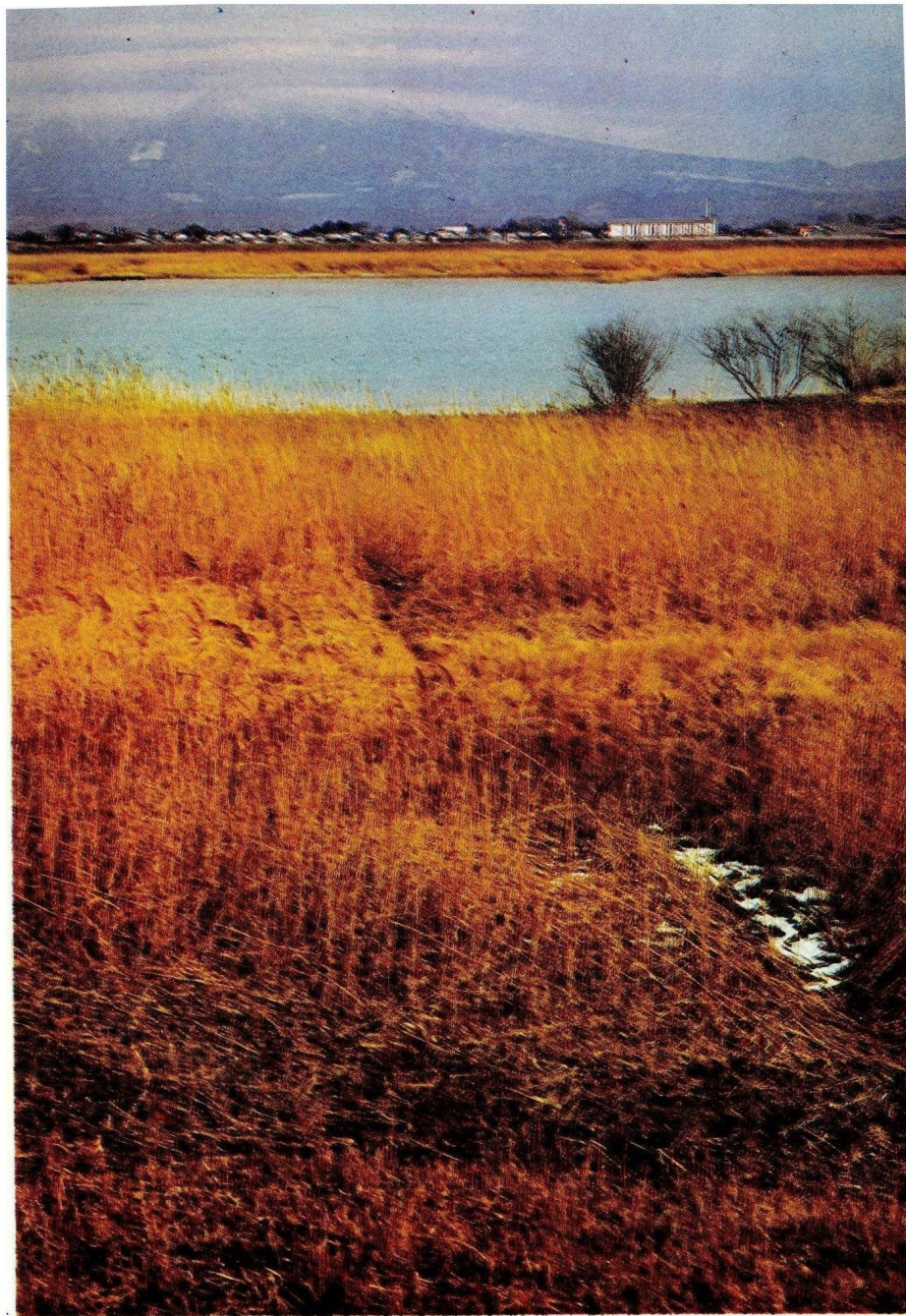
（砂の女）

酒田市郊外十里塚

半月形にそそり立ち、城壁のように部落をとりまいている砂丘の稜線にそって、男はうつむきかげんに歩きだした。

（砂の女）

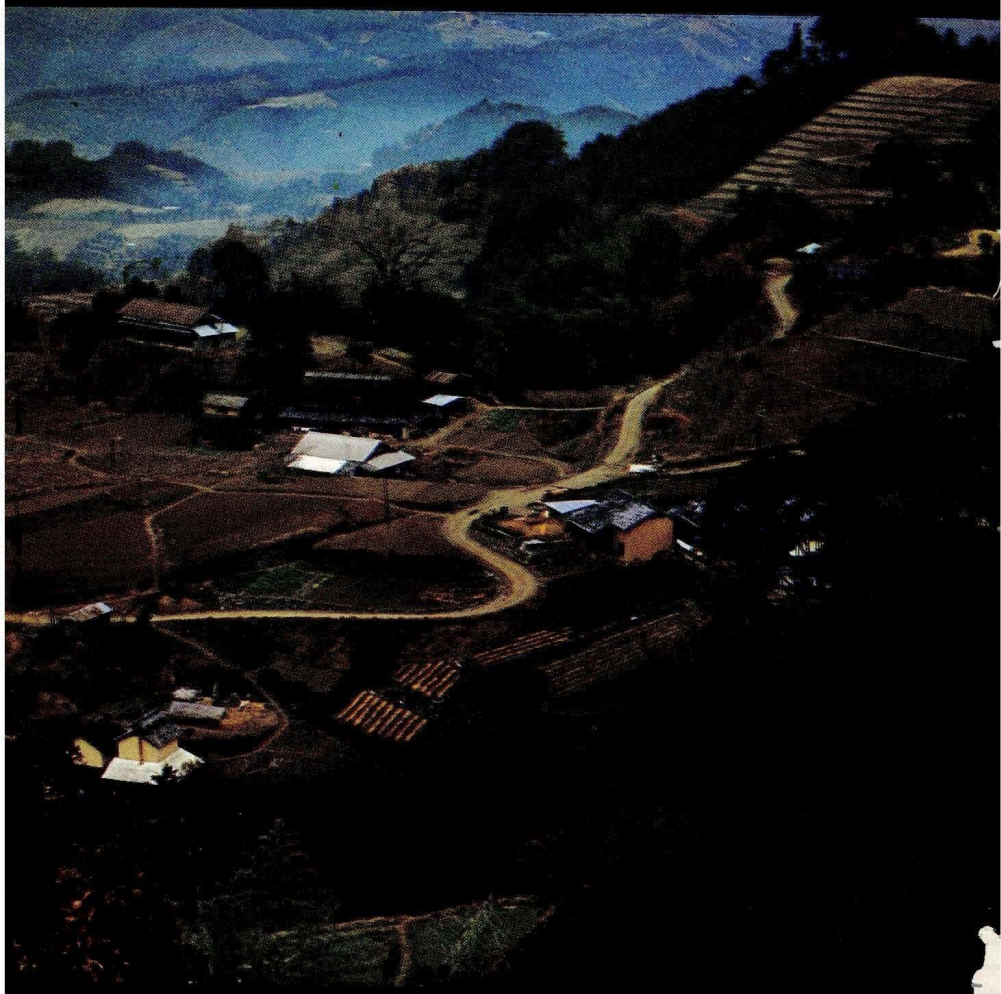
酒田市郊外十里塚



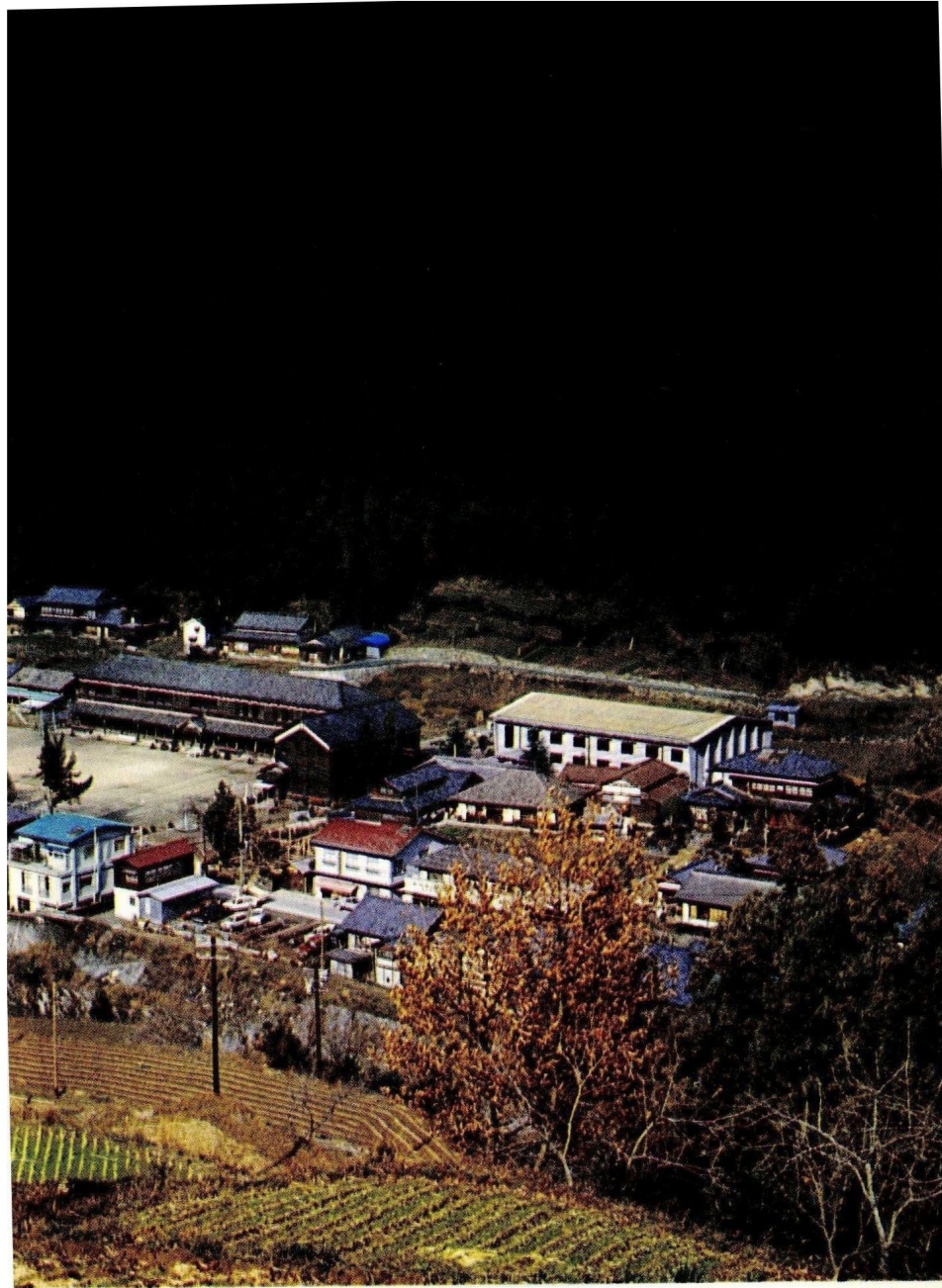
最上川より酒田市を遠望（「砂の女」）

大江健三郎文学紀行

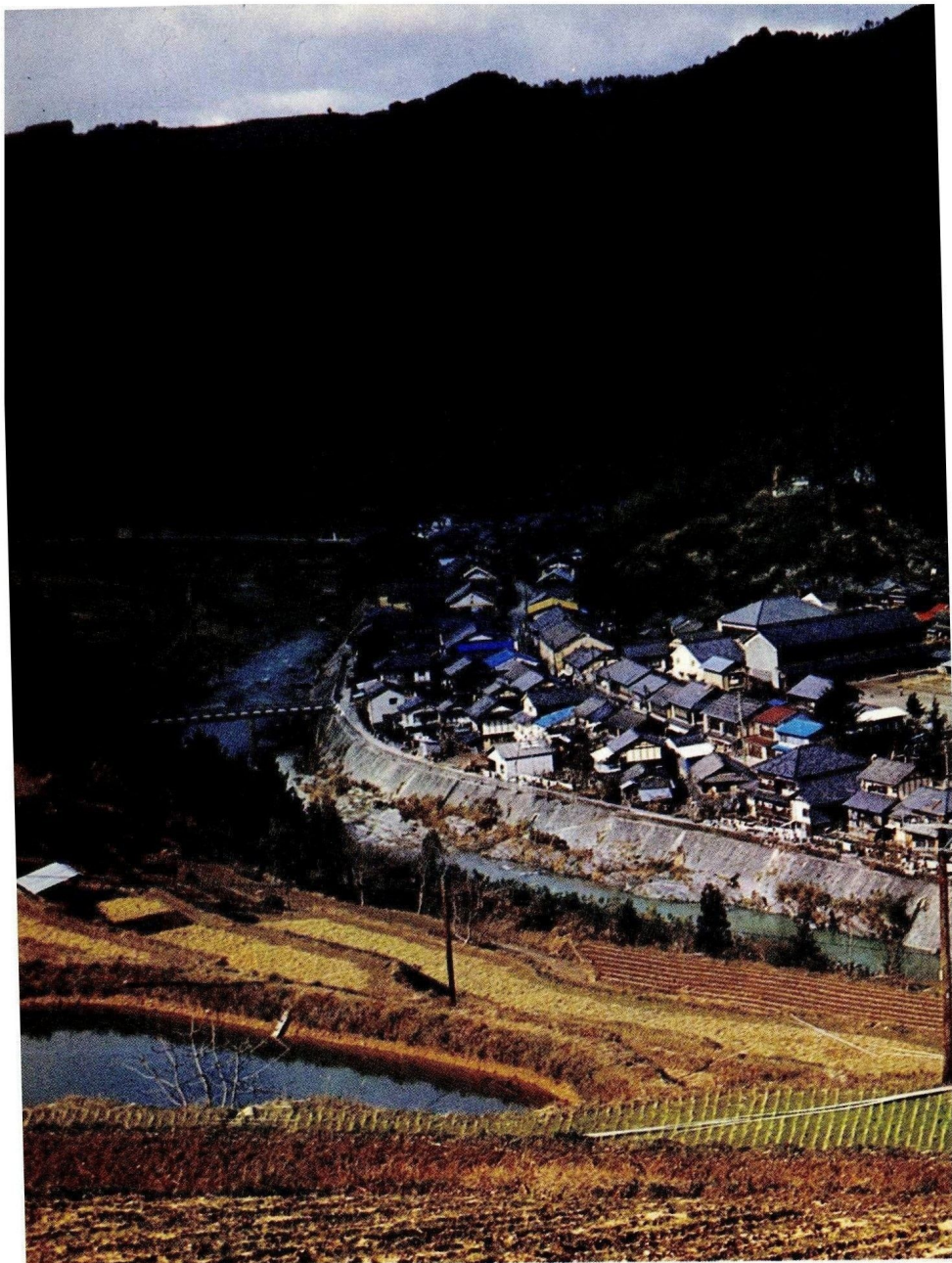
東京大学出版会



(1) 小説『潮』(1957年)
『潮』(1957年)は、大江健三郎のデビュー作である。この小説は、主人公の自伝的な物語であり、戦後の日本社会を背景に、個人の内面と社会の矛盾を描いている。この小説は、大江健三郎の文学的才能を初めて世に示した。『潮』は、大江健三郎の文学的探求の始まりであり、その後の作品へとつながる重要な一歩である。

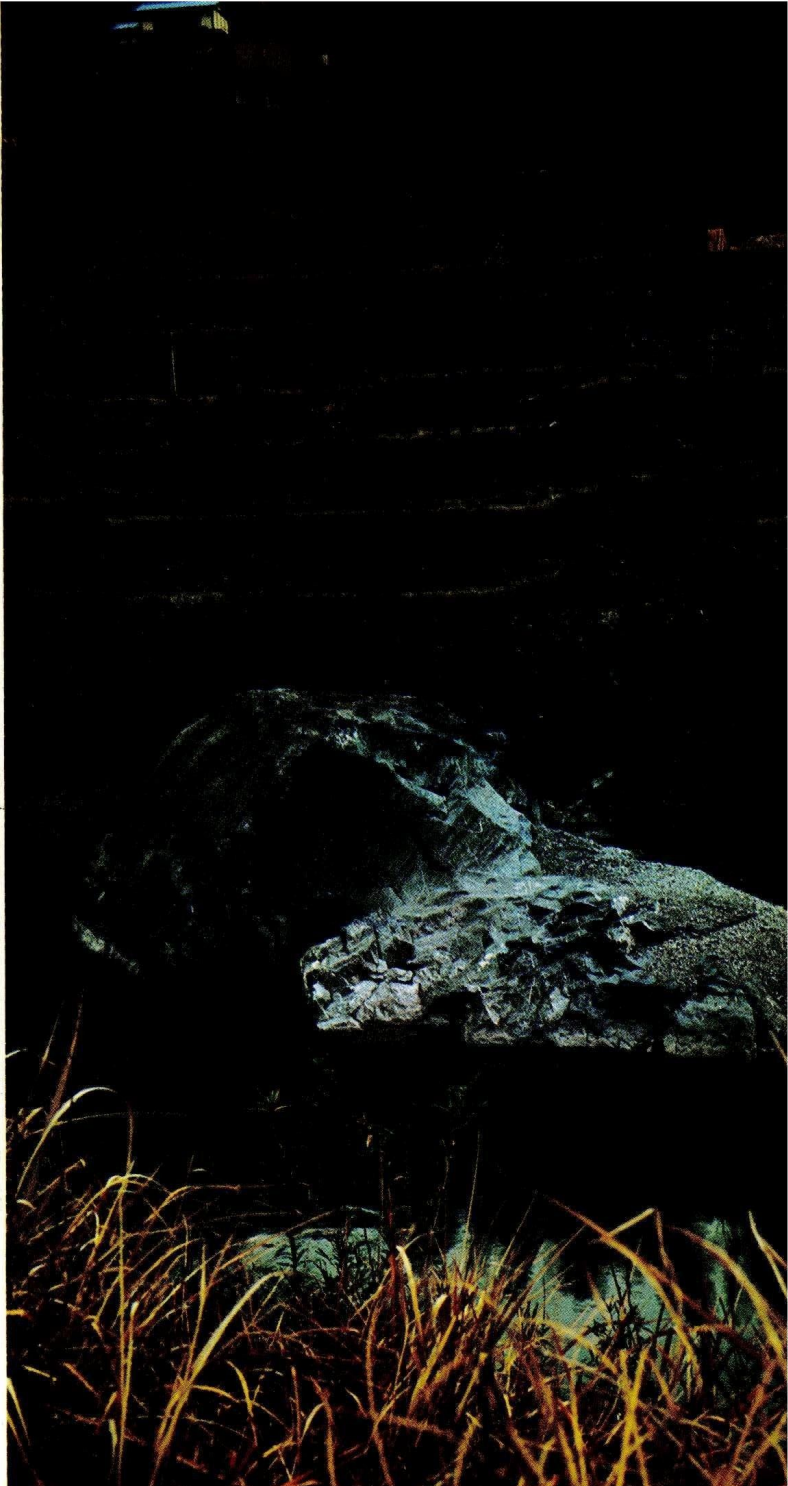
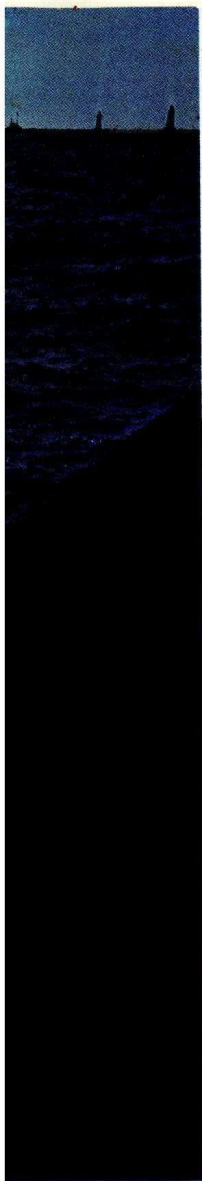


愛媛県喜多郡内子町大瀬



僕たちの住む、谷間へかたむいた山腹の、石を敷きつめた道を囲む小さい村には、葡萄色ぶどういろの光がなだれていた。

(「飼育」)





僕らはみんな鳥の
ように裸になり、
黒人兵の服を剥ぎ
とると、泉の中へ
群らがつて跳びこ
み、水をはねかけ
あい叫びたてた。

(「飼育」)

大瀬の共同水汲場

青年は釧路(くしろ)の港で
密猟者たちと別れ
ると、……四日ぶ
りに母親の所に戻
ってきた。

釧路港(幸福な若
いギリアク人)

